



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 10 月 25 日(木)
風景街道サミット in あさま 編

10 月 25 日全国初の「風景街道サミット in あさま」が群馬県嬭恋村で開催されました。当NWからは能登祐子会長、川口文弘(国交省)の 2 名が参加しました。

主なプログラムは下記のとおりです。

- 基調講演 筑波大学 石田東生氏
- 事例紹介(全国で3事例)
 - ・ のしろ白神の道 ・ 隠岐風待ち街道(島根)
 - ・ 浅間・白根・志賀さわやか街道(群馬・長野)
- パネルディスカッション
 - ・ コーディネーター NPO 法人環境システム研究会 理事長 横島庄司氏
 - ・ パネリスト 株式会社交通新聞社 矢口正子氏
 - ・ おちょんきねっと代表 松本もとみ氏(地元)
 - ・ 筑波大学 石田東生氏 ・ 全国 10 地域の活動団体

挨拶後、「風景・みち・協働」と題して石田氏の基調講演がありました。風景では、風景そのものではなく地域そのものの衰えが課題であること(例えば、耕作放棄値の増加)、みちには様々な意味があり、みちの利活用が重要なこと、協働ではハイウェイとバイウェイの連携、地域の担い手との連携、みちの持つ人と人、地域と地域を結ぶ力の活用などのお話がありました。

続いて、諸外国における道路整備での景観開発及び景観回復についてのお話しと、日本における道路整備の現状(費用対効果重視であり、経済効率性以外の基準がないこと)についてお話しがあり、最後にシーニックバイウェイ 10 年間の活動の成果(地域が美しく強くなった、行政が変わりつつある)、抱える課題(心技体の充実強化)、NPO 法人日本風景街道コミュニティの活動紹介で講演が終了しました。

次は全国から選ばれた 3 団体の活動事例紹介です。トップバッターは我が「のしろ白神の道」の能登代表です。

少し緊張しているご様子でしたが、10 分の持ち時間の中で、ルートで紹介では自然景観が豊かであり、市民に「木のまち」を身近に感じていただけるような活動を行っていること、その活動を行っていく組織は、事務局が秋田県立大学木材高度加工研究所という木材の特徴や活用方法などに詳しい専門家に入っていたり、同じ志を持った地元の 5 団体と行政で構成されていることを紹介しました。魅力向上の取組として黒松並木の剪定、かやぶき屋根の修復、ウッドチップ舗装や木橋の施工、毎年開催しているのしろ市民まちづくりフォーラムやまち灯りなどの活動紹介、最後に会津若松との姉妹協定締結、活動資金の確保が今後の課題であることを紹介しました。



開催前の記念撮影



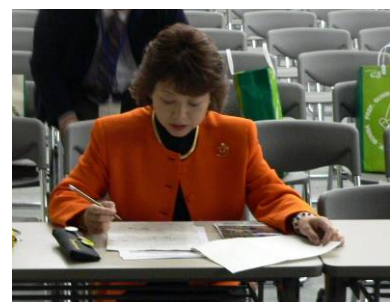
北は能代、南は沖縄から多くの参加者



NWの展示コーナーも開設



能登会長の発表の様子



実は発表前に猛勉強



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

その後、2 団体の活動紹介が続きます。隠岐風景街道は地域がジオパークに認定されており、観光を中心とした活動（ジオツーリズム）により地域活性化に取り組んでいること、浅間・白根・志賀さわやか街道は、植栽活動により訪れた方へのおもてなしや写真コンテストの実施、ルートサインの設置などを行っていることが紹介され、どの街道とも地域資源が豊かで、地元行政と協働で観光に力を入れていました。

パネルディスカッションでは横山氏をコーディネーターに、石田氏、矢口氏、松本氏、全国 10 箇所の風景街道の代表がパネリストとして活動内容の紹介や課題に対するアドバイスをいただきました。場所を移しての交流会では、主催者や各団体など色々な方と交流を深めることができました。

今回のサミットで事例紹介やパネルディスカッションに参加された団体の多くは、地元行政と協働で地域づくりや観光の取組をされていました。誘客などその効果も活動期間 10 年以上くらいでみられるような地域が多かったように思います。

のしろ白神の道も活動開始から7年です。他の地域とは同じように行かない面もあると思いますが、良いところは参考にして、モットーである「やれることからやってみましょう」。

文：川口 文弘

この度は貴重な場に参加させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。宮崎の「日南海岸きらめきライン」事務局の谷越さんと再会できたことも嬉しい出来事でした。

参加団体の多くが県が事務局となり、国、市、商工会議所等との連携が取れており、羨ましい限りでした。我がネットワークも民・学・官の連携組織ですが十分に機能していないように思います。年に1度の「のしろ市民まちづくりフォーラム」も県、市からの参加はほとんどの無く、特に県は日本風景街道事業をご存じないのでは？と思うほどです。佐々木・渡辺先生のような大学の先生（アドバイザー的役割）が事務局という例はあり得ないことなのです。

この度の参加で実に多くの方々と出会い、そこがなぜ先進地となれたのか、実績を積むことが出来たのかを垣間見たように思います。そして、自分の未熟さと発展途上東北の現実（会津は別格）を痛感した 2 日間でした。まちづくりは「人」の意識が重要です。やる気は自ずと見えてしまいます。今回学んだ～発掘・発信・手法～を伝え、実践しなければと思います。

このサミット開催に際し、最初から最後までお世話になりました群馬県県土整備部道路整備課道路企画室道路計画係の吉田さんをはじめ「浅間・白根・志賀さわやか街道協議会」、嬭恋村、草津町、中之条町、長野原町、軽井沢町、山ノ内町、群馬県、長野県、草津観光協会、プリンスホテル、風景街道関東地方協会、国土交通省関東地方整備局の皆様にご心よりお礼申し上げます。有難うございました。

文：能登 祐子



パネルディスカッションの様子



「ゆもみちゃん」のお出迎え



はなやかな交流会会場



国交省の皆さんとの記念撮影
(握手しているのは道路局長)



お世話になった嬭恋村の千川さん、吉田さんとの記念撮影